

(1) 内 科

1. 研修の目標

全身を系統立てて診察する能力と全人的に医療を実践することが目的である。特に日常よく遭遇する内科的疾患を経験しながら重要な疾患を中心に、疾病に対する内科的な問題解決手法を理解する。また、必要最小限の検査法及び内科疾患の救急処置を修得する。

2. 研修指導体制

- (1) 病棟では、主治医として入院患者の治療に従事し、その実際を行う。
- (2) 外来研修では、病歴を聴取して診察者の指導の下に患者診察を行う。
- (3) 医学部学生の臨床実習では、学生に割り当てられた患者の主治医として学生を教育指導する。

3. 研修指導責任者 川上 純

4. 研修内容

大学病院では、6か月間を6内科のうち2つないし3つを選んで、各々3か月ないし2か月半の期間で研修を行なう。最初の科では主に内科診療に必要な基礎研修を行い、その後経験目標が達成されるように各診療科を選択し症例をもち研修する。

5. 研修到達目標

5-1 行動目標

医療人として必要な基本姿勢と態度を身につける

- (1) 患者と医師の良好な人間関係
- (2) チーム医療の理解と役割
- (3) 問題提起とその対応能力
- (4) 安全な医療の遂行と安全管理
- (5) 医療面接
- (6) 症例呈示
- (7) 診療計画（保健、医療、福祉）
- (8) 医療の社会的側面を理解し貢献する

5-2 経験目標

A 基本的な診察法、検査、手技、治療について

- (1) 身体診察法ができる
- (2) 臨床検査の理解、実施、解釈（自ら実施し結果を解釈するものとして、血液型判定、交差適合試験、心電図、超音波検査など）
- (3) 基本的手技の適応を決定し実施する
- (4) 治療法の適応を決定し実施
- (5) チーム医療として医療記録の作成と管理

B 経験すべき症状、病態、疾患

- (1) 頻度の高い症状について
不眠、浮腫、リンパ節腫脹、発疹、発熱、頭痛、めまい、視力障害
視野狭窄、結膜の充血、胸痛、動悸、呼吸困難、咳・痰、嘔気・嘔吐
腹痛、便通異常、腰痛、四肢のしびれ、血尿、排尿障害など
- (2) 緊急を要する症状と病態
心肺停止、ショック、意識障害、脳血管障害、急性心不全
急性冠症候群、急性腹症、急性消化管出血、外傷、急性中毒など
- (3) 経験が求められる疾患と病態（各内科選択科目の項を参照）

C 特定の医療現場の経験

- (1) 救急医療
- (2) 予防医療
- (3) 地域保健・医療
- (4) 緩和・終末医療